

# データから 「真実」を読み取る



総務省統計局統計資料館(東京都新宿区)でのフィールドワーク

企業や投資家が市場の動きを把握する際に用いる手法の一つに「統計」があります。統計とは、ある集団内で起こった事象を数量的に表し、その集団の特徴を探ること。具体例で説明しましょう。ある高校で実力テストを実施したところ、1組と2組の平均点は同じ80点でした。これだけを見ると、1組と2組は同じようなクラスだと思えますね。しかし詳しく見ていくと、1組は85点や75点といった平均点付近の生徒が多かったのに対し、2組は100点や95点の生徒と、65点や60点といった生徒に分散していました。これでは、1組と2組が同じようなクラスだとはとても言えません。このようなことがあるため、分析では複数の指標を組み合わせたり、データをグラフにしたりして、複眼的に見ていくことが大切なのです。情報技術の進化により、いろいろなデータを入手することは容易になりました。しかしデータを集めることと、そこから「真実」を読み取ることは違います。そして、いま、ビジネスの現場で求められているのは、正に後者なのです。

(長 國強 教授:経営統計)